

2018年度 環境経営レポート

(対象期間:2018年1月～2018年12月)

株式会社 ジャバラ



発行日: 2019年 2月 5日

改訂日: 年 月 日

株式会社ジャバラ 環境経営方針

<環境理念>

株式会社ジャバラは、より良い未来環境の実現に向けて、企業市民としての良識をもって、環境改善に貢献するジャバラ製品を創出するとともに、事業活動を通じて環境負荷の低減に取り組みます。

<活動方針>

1. 次の事項について、環境経営目標・環境経営計画を定め、定期的に見直しを行い、継続的改善に努めます。

- 1) 資源（電力・燃料・水など）消費量の削減
- 2) 廃棄物の3R（減量、再使用、再生利用）
- 3) 有害物質の低減
- 4) グリーン購入（環境負荷低減型資材の購入）
- 5) 環境に配慮した製品の開発と販売促進

2. 環境関連法令と諸規則を順守します。

制定日：2010年4月1日

改定日：2018年4月1日

代表取締役 藤中 理香



□組織の概要

(1) 名称及び代表者名

株式会社 ジャバラ
代表取締役社長 藤中 理香



(2) 所在地

本社・大阪営業所 〒541-0053 大阪市中央区本町 3-5-7 (御堂筋本町ビル)

たつの工場 〒679-4016 兵庫県たつの市揖西町南山 3-8

J A B A F L E X

東京営業所 〒110-0016 東京都台東区台東 4-5-1 (タマタビル)

名古屋営業所 〒460-0002 名古屋市中区丸の内 2-18-22 (三博ビル)

※エコアクション21対象範囲は、上記4サイト全てとする。

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境経営総括責任者 代表取締役社長 藤中 理香

環境管理責任者 製造部長 北野 修吾

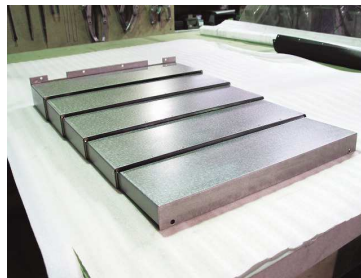
Tel : 0791-64-8200 Fax : 0791-64-8201 E-Mail : s-kitano@jabara.co.jp

(4) 事業内容

輸送機器用、工作機械用及び産業機器用のジャバラ製品の設計・製造



キャノピーフード



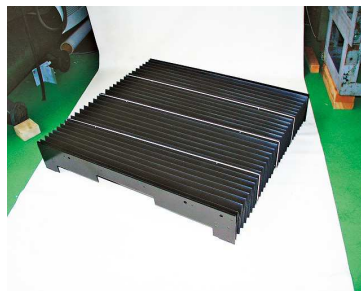
テレスコカバー



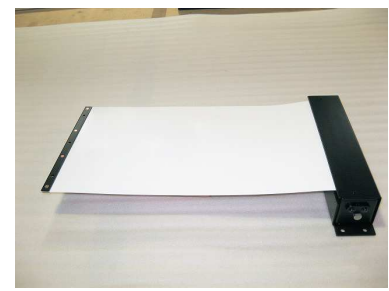
スクリーカバー



免震継手



折りジャバラ



巻取りカバー

(5) 事業の規模

製品出荷額 2,808 百万円 (2018 年度実績)

	本社・大阪営業所	たつの工場	東京営業所	名古屋営業所
従業員	10 名	116 名	6 名	4 名
延べ床面積	212.04 m ²	5528m ²	118.54 m ²	58.57 m ²
敷地面積		11,993m ²		

(6) 事業年度 2018 年 1 月～12 月

(7) 会社沿革

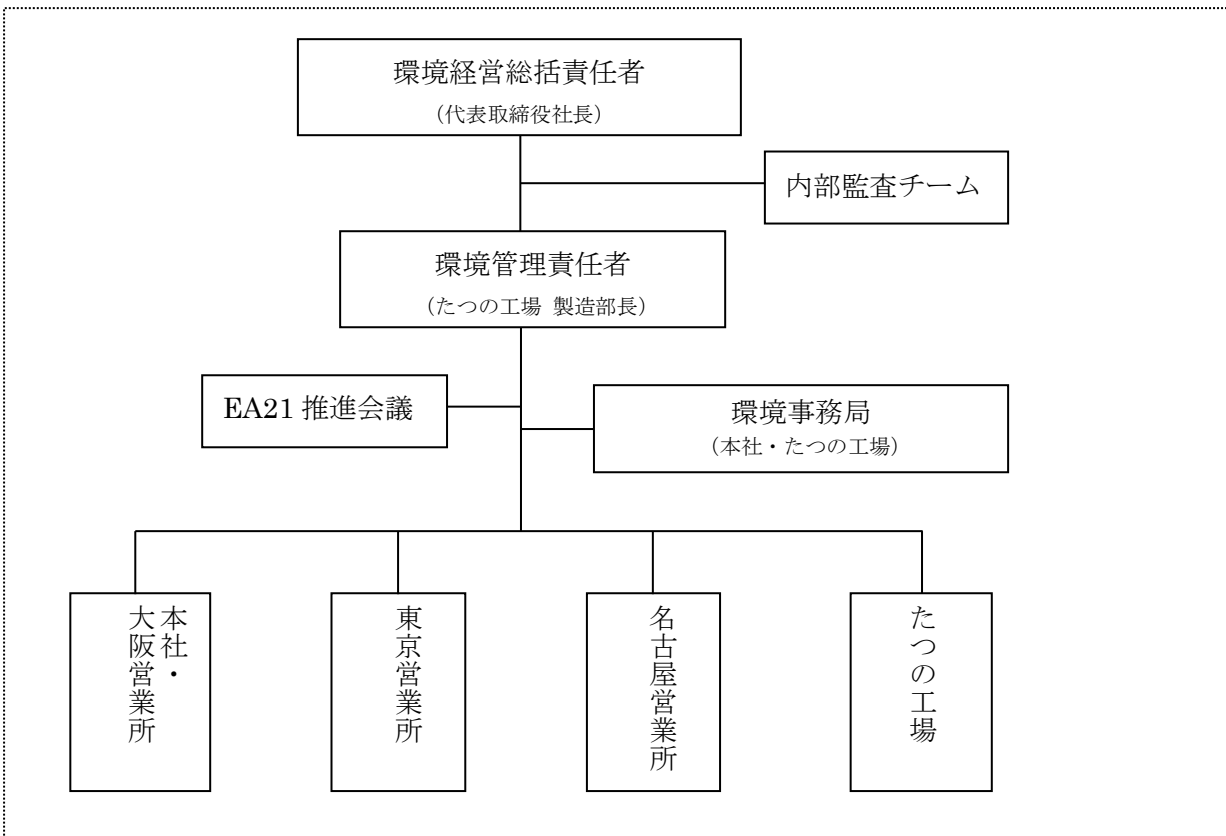
- 昭和 36 年 工業用ジャバラメーカーとして資本金 300 万円にて創立
三菱重工(株)京都精機製作所他に工業用ジャバラ製品の納入開始
- 昭和 39 年 東京営業所開設
- 昭和 40 年 名古屋営業所開設
- 昭和 43 年 国有鉄道 (現 JR 各社) に鉄道車両用タワミ風道を納入開始
- 昭和 46 年 龍野工場開設
- 昭和 48 年 フェリーバス用ジャバラを開発、東京湾に納入開始
- 昭和 53 年 橋梁配水管継手ドレシーが建設省 (現国交省) の基本設計図書に採用される
- 昭和 56 年 建設省実験プロジェクトとしてダム水質浄化システムを開発、緑川ダムに試作機納入
- 昭和 59 年 龍野工場 (製造、技術) 新社屋完成
一庫ダムに水質浄化システム深層曝気装置納入。以降布目ダム他多数に納入
- 昭和 60 年 資本金 2,000 万円に増資
JR 各社他に鉄道車両用連結ホロ納入開始
空港用キャノピー (特許第 1688197 号) を開発、主要空港に納入開始
ウェルダー加工ジャバラの生産開始
- 昭和 61 年 本四架橋向けにローラシュー用ステンレス製テレスコカバー、ゴム製樋を納入開始
- 昭和 63 年 倉庫レスパレットカバー (特許第 1881353 号) を開発、製鉄所に納入開始
- 平成元年 関西新空港向け連絡橋用、ゴム製樋・支承カバー納入開始
電動開閉式大型倉庫レスパレットカバーを開発、製鉄所に納入開始
- 平成 2 年 テレスコピックカバー生産設備更新、工作機械向けジャバラの本格増産体制に入る
- 平成 6 年 ダラス向け L R T 用連結ホロ納入開始
関西新空港ターミナルビル北工区・南工区縦樋用継手及びキャニオン EXP 納入
- 平成 10 年 ニュージャージー向け L R T 用連結ホロ納入開始
- 平成 11 年 さいたまスーパーアリーナ向け可動式出入り口用ホロ及び
カーテンウォール貫通部シール用ジャバラ (東西) を納入
- 平成 13 年 JR 東海次期新幹線 (N700 系) 用「全周ホロ」の開発に着手
東京工業大学 広瀬研究室に人命救助用ヘビ型ロボット用間接カバー試作納入開始
- 平成 14 年 液晶テレビ工場向けクリーンルーム用クレーンワイヤーカバー納入開始
- 平成 15 年 台湾新幹線用タワミ風道納入
小里川ダムに放流口水質分離システム納入
- 平成 16 年 国土交通省認定の免震用ジャバラを開発、八尾市民病院他に納入開始
- 平成 17 年 中国鉄道高速列車 CRH2 型用タワミ風道納入
- 平成 18 年 マニラ向け L R T 用連結ホロ納入開始
ISO 9001 認証取得
- 平成 19 年 JR 東海 N700 系用「全周ホロ」の生産開始
- 平成 22 年 低摺動抵抗テレスコピックカバー開発
エコアクション 2.1 認証取得
SUS 薄板巻取り発売開始
- 平成 23 年 若松工場長 (当時) が N700 系用全周ホロの開発功績により兵庫県発明賞を受賞
- 平成 24 年 X Y 軸テレスコカバー開発

平成 25 年 四面巻取りカバー開発
平成 26 年 工場移転
平成 28 年 2 月 東京営業所移転
12 月 本社・大阪営業所移転

□エコアクション 2.1 認証・登録範囲

認証・登録事業者 株式会社ジャバラ
大阪府大阪市中央区本町 3-5-7
対象事業活動 運送機器用、工作機械用及び産業機器用の
ジャバラ製品の設計・製造
対象事業所 本社・大阪営業所、たつの工場、東京営業所
名古屋営業所

□環境経営システム組織



	役割・責任・権限
環境経営総括責任者 代表取締役社長 藤中 理香	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境経営システムの実施及び管理に必要な、人、設備、費用を用意 環境管理責任者を任命 環境経営方針の策定・見直し及び全従業員への周知 環境経営目標の設定を承認 マネジメントレビューを実施 「環境経営レポート」の承認
環境管理責任者 たつの工場 製造部長 北野 修吾	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理 「環境関連法規等取りまとめ表」を承認 「環境経営計画書」を承認 環境経営活動の取組結果を代表者へ報告 「環境経営レポート」の確認
環境事務局 本社総務部 課長 山口 恵美	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐、EA21推進会議の事務局 環境への負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの統括 環境関連法規順守状況の確認 「環境経営目標」・「環境経営計画書」原案の作成 「環境経営計画」の実績集計 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 「環境経営レポート」の作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)
部門責任者 各営業所責任者	<ul style="list-style-type: none"> 自部門における環境への負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 自部門における環境経営システムの実施 自部門における環境経営方針の周知 自部門の従業員に対する教育訓練の実施 自部門に関連する環境経営目標及び環境経営計画の実施及び達成状況の報告 特定された項目の手順書作成及び運用管理 自部門の特定された緊急事態への対応手順書作成、テスト・訓練・記録 自部門の問題点の発見、是正、予防処置
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営方針の理解、環境への取組の重要性を自覚 決められたことを守り、自主的・積極的に環境経営活動へ参加

□主な環境負荷の実績

(2016年～2018年 実績)

環境負荷項目	単位	2016年度	2017年度	2018年度
1) 二酸化炭素総排出量全社合計	kg-CO ₂	443,296	466,862	426,914
・電力による排出量全社合計	kg-CO ₂	403,474	422,590	357,823
	kWh	818,893	857,619	726,371
たつの工場	kg-CO ₂	391,856	409,965	343,185
本社・大阪営業所	kg-CO ₂	5,475	7,062	6,683
東京営業所	kg-CO ₂	5,610	5,010	4,827
名古屋営業所	kg-CO ₂	533	553	3,128
・化石燃料による排出量全社合計 (ガソリン)	kg-CO ₂	39,822	44,272	69,091
	ℓ	16,799	18,522	28,198
たつの工場 (ガソリン)	kg-CO ₂	11,095	8,350	11,692
(軽油)	kg-CO ₂	4,796	4,722	30,156
(灯油)	kg-CO ₂	4,051	10,906	8,057
本社・大阪営業所	kg-CO ₂	14,237	13,722	12,739
東京営業所	kg-CO ₂	1,489	1,303	1,537
名古屋営業所	kg-CO ₂	4,154	5,269	4,910
2) 産業廃棄物排出量合計				
たつの工場	kg	69,360	75,460	58,790
3) 一般廃棄物排出量全社合計	kg	約 1,187	約 1,461	約 1,342
たつの工場	kg	663	933	894
本社・大阪営業所	kg	約 252.1	約 256.4	約 220.4
東京営業所	kg	約 206.9	約 217.5	約 173.6
名古屋営業所	kg	約 64.8	約 54.3	約 54.3
4) 水使用量の削減	m ³			
たつの工場		1,870	1,300	1,722
5) 化学物質使用量(トルエン)	kg			
たつの工場		2,288	1,906	3,416

注) 実績購入電力の二酸化炭素排出係数は、平成 29 年 12 月環境省・経産省公表の調整後排出係数を使用
(関西電力㈱0.493kg-CO₂/kWh、東京電力㈱0.474kg-CO₂/kWh、中部電力㈱0.480kg-CO₂/kWh)
各営業所では一般廃棄物発生量のほとんどがコピー紙の為、コピー用紙の購入量実績から推定。(A4 サイズ 500 枚にて約 2.1kg に換算) 排水量は工場のみ計測可。営業所は家賃に含まれている。

□環境経営目標

全社目標

環境経営目標項目	2018年度	2019年度	2020年度
二酸化炭素排出量合計	425,219 kg-CO ₂	357,068 kg-CO ₂	353,395 kg-CO ₂
電力による排出量	383,477 kg-CO ₂ 793,689 kWh	315,744 kg-CO ₂ 641,042 kWh	312,489 kg-CO ₂ 634,433 kWh
化石燃料による排出量	41,742 kg-CO ₂ 17,634 ℓ	41,324 kg-CO ₂ 17,457 ℓ	40,906 kg-CO ₂ 17,280 ℓ
一般廃棄物排出量	933 kg	914 kg	894 kg

目標購入電力の二酸化炭素排出係数は、平成 29 年 12 月環境省・経産省公表の調整後排出係数を使用

(関西電力㈱0.493kg-CO₂/kWh、東京電力㈱0.474kg-CO₂/kWh、中部電力㈱0.480kg-CO₂/kWh)

営業所化石燃料は入替え車種の燃費(プリウス→フィールダーで 8.5%低下)低下を台数分目標値に加算
 廃コピー紙はアスクルサイクル[®]パー 四六判換算(四六判紙 1,000 枚=57.6 kg)より A4 紙 1 枚=4.2 g として計算

(1) たつの工場

環境経営目標項目	単位	2015年度 実績(基準値)	2018年度 目標	2019年度 目標	2020年度 目標
二酸化炭素 排出量の削減	電力	310,101 (629,008kWh)	368,378 (98%+生産高) (762,466kWh)	300,798 (97%) (610,138kWh)	297,697 (96%) (603,848kWh)
	ガソリン	14,505 (6,248ℓ)	14,215 (98%) (6,123ℓ)	14,070 (97%) (6,061ℓ)	13,925 (96%) (5,998ℓ)
	軽油	5,837 (2,257ℓ)	5,721(98%) (2,212ℓ)	5,662 (97%) (2,189ℓ)	5,604 (96%) (2,167ℓ)
	灯油	3,339 (1,342ℓ)	3,272 (98%) (1,315ℓ)	3,239 (97%) (1,302ℓ)	3,205 (96%) (1,288ℓ)
産業廃棄物排出量の削減	kg	57,966	56,807 (98%)	55,647 (96%)	54,488 (94%)
一般廃棄物排出量の削減	kg	495	485 (98%)	475 (96%)	465 (94%)
総排水量の削減	m ³	1,386	1,358 (98%)	1,344 (97%)	1,331 (96%)
省エネ・省資源チェック 評価点の向上	点	4,224 (2018年1月)	改善 (7,200 満点)	改善 (7,200 満点)	改善 (7,200 満点)
化学物質(トルエン)の 使用量の削減	kg	2,752	2,642 (96%)	2,587 (94%)	2,532 (92%)
環境配慮型・環境貢献型 製品の開発	件	12 (毎月1件)	12	12	12

※ 各欄のカッコ内は、基準値に対する削減率を示す

※ 2014年8月に工場移転。2015年を基準年度とする

※ 売電の相殺は含んでいない

□環境目標（続き）

（2）本社・大阪営業所

環境経営目標項目		単位	2017年度 実績(基準値)	2018年度 目標	2019年度 目標	2020年度 目標
二酸化炭素 排出量の削減	電力	kg-CO ₂	7,062 (14,324kWh)	6,920 (98%) (14,038kWh)	6,850 (97%) (13,894kWh)	6,779 (96%) (13,751kWh)
	化石燃料	kg-CO ₂	11,444 (4,9290)	11,558 (101%) (4,9780)	11,444 (100%) (4,9290)	11,330 (99%) (4,8800)
コピー用紙消費量の削減		枚	55,360 (232.5 kg)	53,146 (96%) (223.2 kg)	52,038 (94%) (218.6 kg)	50,931 (92%) (213.9 kg)
省エネ・省資源チェック 評価点の向上 (1,200 点満点)		点	996	改善 (1,200 満点)	改善 (1,200 満点)	改善 (1,200 満点)
環境配慮型・環境貢献型製品 開発に関する情報の収集		件	年間 2 件以上	一般営業部門 2 件/年以上 マネジメントレビューにて発表		

※ 化石燃料：入替え車種の燃費（プリウス→フィールダーで 8.5%低下）低下を台数分目標値に加算
2018年度 4 台中 1 台、6 月に 2 台

※ 2016 年 12 月移転。2017 年を基準年度とする

（3）東京営業所

環境経営目標項目		単位	2016年度 実績(基準値)	2018年度 目標	2019年度 目標	2020年度 目標
二酸化炭素 排出量の削減	電力	kg-CO ₂	5,610 (11,836kWh)	5,498 (98%) (11,599kWh)	5,442 (97%) (11,481kWh)	5,386 (96%) (11,362kWh)
	化石燃料	kg-CO ₂	1,489 (6410)	1,444 (97%) (6220)	1,429 (96%) (6150)	1,415 (95%) (6090)
コピー用紙消費量の削減		枚	44,030 (184.9 kg)	42,269 (96%) (177.5 kg)	41,388 (94%) (173.8 kg)	40,508 (92%) (170.1 kg)
省エネ・省資源チェック 評価点の向上 (1,200 点満点)		点	1,128	改善 (1,200 満点)	改善 (1,200 満点)	改善 (1,200 満点)
環境配慮型・環境貢献型製品 開発に関する情報の収集		件	年間 2 件以上	一般営業部門 2 件/年以上 マネジメントレビューにて発表		

※ 2016 年 2 月移転。2016 年を基準年度とする

（4）名古屋営業所

環境経営目標項目		単位	2017年度 実績(基準値)	2018年度 目標	2019年度 目標	2020年度 目標
二酸化炭素 排出量の削減	電力	kg-CO ₂	2,736 (5,700kWh)	2,681 (98%) (5,586kWh)	2,654 (97%) (5,529kWh)	2,627 (96%) (5,472kWh)
	化石燃料	kg-CO ₂	5,269 (2,2700)	5,532 (105%) (2,3840)	5,480 (104%) (2,3610)	5,427 (103%) (2,3380)
コピー用紙消費量の削減		枚	11,500 (48.3 kg)	11,270 (98%) (47.3 kg)	11,040 (96%) (46.4 kg)	10,810 (94%) (45.4 kg)
省エネ・省資源チェック 評価点の向上 (1,200 点満点)		点	1,128	改善 (1,200 満点)	改善 (1,200 満点)	改善 (1,200 満点)
環境配慮型・環境貢献型製品 開発に関する情報の収集		件	年間 2 件以上	一般営業部門・特需営業部門各 2 件/年以上 マネジメントレビューにて発表		

※ 化石燃料：入替え車種の燃費（プリウス→フィールダーで 8.5%低下）低下を台数分目標値に加算
2018年度 2 台中 2 台

※ 2015 年 10 月電力請求締め日変更。2016 年は調整値使用のため 2017 年を基準年度とする。

□主要な環境経営計画の内容及び取組結果の評価

期間（2018年1月～12月）12ヶ月間の目標とその実績についての評価

（1） たつの工場

環境経営計画の取組内容	達成状況 (1月～12月)		(単位) 基準年度比	目標に対する実績評価
電力の二酸化炭素排出量削減 ・蛍光灯からLEDへ切替検討 ・空調の電力削減 ・空調効率の改善 ・機械停止時アラーム音検討 (空運転防止)	基準値	310,101	(kg-CO ₂)	○：目標達成 (基準 762,466 / 実績 696,116 kWh)
	目標	368,378	119%	
	実績	343,185	111%	
	達成度	107%		
化石燃料の二酸化炭素排出量削減 (ガソリン)・エコドライブの励行 ・車両点検整備の徹底 ・効率的な運転の励行 ・低燃費車の選定・導入	基準値	14,505	(kg-CO ₂)	◎：次年度目標以上達成 (基準 6,248 / 実績 5,036 ㍉)
	目標	14,215	98%	
	実績	11,692	81%	
	達成度	122%		
化石燃料の二酸化炭素排出量削減 (軽油)・エコドライブの励行 ・車両点検整備の徹底 ・効率的な運転の励行 ・燃費の管理・改善	基準値	5,837	(kg-CO ₂)	×：目標未達成 (基準 2,257 / 実績 11,470 ㍉)
	目標	5,721	98%	
	実績	30,156	517%	
	達成度	19%		
化石燃料の二酸化炭素排出量削減 (灯油)	基準値	3,339	(kg-CO ₂)	×：目標未達成 (基準 1,342 / 実績 2,801 ㍉)
	目標	3,272	98%	
	実績	8,057	241%	
	達成度	41%		
産業廃棄物排出量の削減 ・分別ルールの徹底 ・分別によるリサイクル促進 ・原材料の歩留向上	基準値	57,966	(kg)	×：目標未達成
	目標	56,807	98%	
	実績	58,790	101%	
	達成度	97%		
一般廃棄物排出量の削減 ・分別の徹底、コピー紙の節約 ・廃棄物抑制意識の高揚 ・発生量の秤量の確実な実施	基準値	495	(kg)	×：目標未達成
	目標	485	98%	
	実績	894	181%	
	達成度	55%		
水使用量の削減 ・節水の徹底 ・節水器具の取付け ・漏水点検の実施	基準値	1,386	(m ³)	×：目標未達成
	目標	1,358	98%	
	実績	1,722	124%	
	達成度	80%		
省エネ・省資源チェック評価点向上 ・節電の徹底 ・コピー紙の節約 ・一般ゴミ削減・分別 ・エコ活動の朝礼報告	基準値	4,224	(点)	○：目標達成
	目標	4,236	改善	
	実績	4,678	111%	
	達成度	110%		
化学物質(トルエン)の使用量削減 ・代替溶剤への切替 ・代替接着剤への切替 ・575FHの他モデルへの応用 ・製品の接着→ラミネートへの設計変更	基準値	2,752	(kg)	×：目標未達成
	目標	2,642	96%	
	実績	3,416	124%	
	達成度	81%		

環境配慮型・環境貢献型製品開発 ・設計の環境改良毎月1件 ・製作しやすい設計に改良 ・工程内検査のしやすい設計 ・過剰品質の見直し等	基準値	12	(件)	<u>×：目標未達成</u>
	目標	12	100%	
	実績	10	83%	
	達成度	83%		

注) ○：目標達成 ◎：次年度目標以上達成 ×：未達成 として記入
 ※今後もこの取組みを継続していきます

(2) 本社・大阪営業所

環境経営計画の取組内容	達成状況 (1月～12月)		(単位) 基準年度比	目標に対する実績評価
	基準値	実績	達成度	
電力の二酸化炭素排出量削減 ・営業不在時の消灯 ・空調温度の適正化	基準値	7,062	(kg-CO ₂)	<u>◎：次年度目標以上達成</u> (基準 14,324 / 実績 13,555 kWh)
	目標	6,920	98%	
	実績	6,683	95%	
	達成度	104%		
化石燃料の二酸化炭素排出量削減 ・電車ダイヤ(月2回)設定 ・エコドライブの励行 ・車両点検整備の徹底 ・急発進、急停車禁止	基準値	11,444	(kg-CO ₂)	<u>×：目標未達成</u> (基準 4,929 / 実績 5,487 0)
	目標	11,558	101%	
	実績	12,739	111%	
	達成度	91%		
コピー用紙消費量の削減 ・依頼書のPDF化 ・受注原票の削減 ・期中での使用量の確認	基準値	55,360	(枚)	<u>◎：次年度目標以上達成</u>
	目標	53,146	96%	
	実績	50,360	91%	
	達成度	106%		
省エネ・省資源チェック評価点向上 ・省エネルギー対策 ・省資源・廃棄物の抑制 ・社用車の適正使用	基準値	996	(点)	<u>○：目標達成</u>
	目標	1008	改善	
	実績	1,037	104%	
	達成度	103%		
環境配慮型・環境貢献型製品開発に関する情報の収集 ・顧客情報の収集 ・市場情報の収集 ・開発・販売等取り組みの報告	基準値	2件以上	(件)	<u>○：目標達成</u>
	目標	2件以上	100%	
	実績	2件以上	100%	
	達成度	100%		

注) ○：目標達成 ◎：次年度目標以上達成 ×：未達成 として記入
 ※今後もこの取組みを継続していきます

(3) 東京営業所

環境経営計画の取組内容	達成状況 (1月～12月)		(単位) 基準年度比	目標に対する実績評価
	基準値	実績	達成度	
電力の二酸化炭素排出量削減 ・消灯・減灯の励行 ・空調温度の適正化 ・クールビズ、ウォームビズ導入 ・自然採光、外気の活用	基準値	5,610	(kg-CO ₂)	◎：次年度目標以上達成 (基準 11,836 / 実績 10,183 kWh)
	目標	5,498	98%	
	実績	4,827	86%	
	達成度	114%		
化石燃料の二酸化炭素排出量削減 ・エコドライブの励行 (余裕のある段取りで事故も防ぐ) ・営業所標語で意識付け 『アクセルはやさしく踏もう!』	基準値	1,489	(kg-CO ₂)	×：目標未達成 (基準 641 / 実績 662 ㍀)
	目標	1,444	97%	
	実績	1,537	103%	
	達成度	94%		
コピー用紙消費量の削減 ・両面/集約印刷の推進 ・裏紙の活用 ・節紙の啓蒙 (シール表示)	基準値	44,030	(枚)	◎：次年度目標以上達成
	目標	42,269	96%	
	実績	37,050	84%	
	達成度	114%		
省エネ・省資源チェック評価点向上 ・省エネルギー対策意識付け ・省資源・廃棄物の抑制 ・インカーの適正使用 ・情報を共有し環境配慮の意識を高める	基準値	1,128	(点)	○：目標達成
	目標	1,140	改善	
	実績	1,140	101%	
	達成度	100%		
環境配慮型・環境貢献型製品開発に関する情報の収集 ・顧客情報の収集 ・市場情報の収集 ・社内提案制度の活用 ・新製品・新素材の開発	基準値	2件以上	(件)	○：目標達成
	目標	2件以上	100%	
	実績	2件以上	100%	
	達成度	100%		

注) ○：目標達成 ◎：次年度目標以上達成 ×：未達成 として記入
※今後もこの取組みを継続していきます

(4) 名古屋営業所

環境経営計画の取組内容	達成状況 (1月～12月)		(単位) 基準年度比	目標に対する実績評価
	基準値	実績	達成度	
電力の二酸化炭素排出量削減 ・消灯・減灯の励行 ・空調温度の適正化 ・クールビズ、ウォームビズの導入	基準値	2,736	(kg-CO ₂)	×：目標未達成 (基準 5,700 / 実績 6,517 kWh)
	目標	2,681	98%	
	実績	3,128	114%	
	達成度	86%		
化石燃料の二酸化炭素排出量削減 ・エコドライブの励行 ・車両点検整備の徹底 ・効率的な運転の励行 ・燃費の管理・改善	基準値	5,269	(kg-CO ₂)	◎：次年度目標以上達成 (基準 2,270 / 実績 2,115 ㍀)
	目標	5,532	105%	
	実績	4,910	93%	
	達成度	113%		

コピー用紙消費量の削減 ・両面コピーの徹底 ・裏紙の活用 ・節紙の啓蒙（シール表示） ・会議資料の節紙（PC上での資料確認）	基準値	11,500	(枚)	<u>×</u> ：目標未達成
	目標	11,270	98%	
	実績	12,500	109%	
	達成度	90%		
省エネ・省資源チェック評価点向上 ・省エネルギー対策 ・省資源・廃棄物の抑制 ・社用車の適正使用	基準値	1,128	(点)	<u>○</u> ：目標達成
	目標	1,140	改善	
	実績	1,159	103%	
	達成度	102%		
環境配慮型・環境貢献型製品開発に関する情報の収集 ・顧客情報の収集 ・市場情報の収集 ・社内提案制度の活用 ・新製品・新素材の開発	基準値	営業所 特需営業 各2件以上	(件)	<u>○</u> ：目標達成
	目標		100%	
	実績	各2件以上	100%	
	達成度	100%		

注) ○：目標達成 ◎：次年度目標以上達成 ×：未達成 として記入
 ※今後もこの取組みを継続していきます

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	遵守すべき主な要求事項	評価
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物（廃プラ、木屑、金属屑等）の適正処理	遵守
騒音規制法	空気圧縮機、送風機、液圧プレス、機械プレス等特定施設の届出、	遵守
振動規制法	空気圧縮機、送風機、液圧プレス、機械プレス等特定施設の届出	遵守
P R T R 法	特定化学物質（トルエン等）排出量の届出	遵守
消防法	危険物（有機溶剤）の適正管理、火災報知機・消火栓の定期点検	遵守
フロン排出抑制法	フロン使用機器の適正な管理 定期点検及び記録の保管（業務用空調機等）	遵守
大気汚染防止法	VOC 規制（乾燥の用に供する施設）の遵守	遵守
悪臭防止法	トルエン、酢酸エチル等の適正管理	遵守

2018年12月31日現在、昨年に引き続き環境関連法規制等の遵守状況を確認した結果、遵守されていることを確認しました。なお、本年、環境に関する関連当局及び隣接住民からの指導及び訴訟、苦情等はありませんでした。

□ 代表者による全体の評価と見直し

エコアクションの活動は9年目にはいった。

2018年の売上高は、前年比10%超の伸びで28億円となった。製造の残業も増加し、それに伴い工場の使用エネルギー量も増加した。

溶剤低減の代替接着剤については、難航しつつもUV接着の検証が進んでいる。活動を継続していく。

コピー用紙の削減については、工場の工程指示を紙からディスプレイの利用に切り替えるシステムの検討を行なっている。導入の暁には大幅なコピー用紙の削減が見込める。

新しく7月に導入したファイバーレーザ加工機は、従来品よりも省エネ（液化酸素ガス、電力ともに）に加え加工効率が倍になったことで、今後のCO2削減が期待できる。

新製品生産のために11月末に完成した250坪の建屋は来年いっぱい生産設備を導入し、試験稼働を経てからの本格稼働となる。この新建屋の屋根にも60kwの太陽光パネルを設置した。

自社チャーター便は、順調に稼働し効果も見え出したところで、タイトな納期対応によりまとめ配送がままならない状態になっている。生産計画とスケジューリング調整、通い箱およびラックの工夫でカイゼンを行なっていく。

省エネルギー・省資源チェック評価点の向上については、ルールを明確化し、担当をローテーションにしたことで、省エネ意識の向上と普及の促進に大いに役立つツールとなった。

営業と技術が、環境配慮型・環境貢献型製品の開発を戦略的に捉え、取り組みがイノベーションの引き金となることを期待したい。

2019年2月5日 代表取締役 藤中 理香

□活動状況

(1) 環境貢献・環境配慮製品

①新幹線 全周ホロ	②塩ビ→オレフィン製品	③耐久性向上シート製品
		

(2) 省エネ・省資源活動

①太陽光発電設置	② エコカー導入	③工場内蛍光灯⇒LED
		

(3) 廃棄物の分別・リサイクル活動

①産業廃棄物置場	②ダンボール紙分別置場	③産業廃リサイクル置場
		

(4) 防火訓練・清掃活動

①防火訓練 避難訓練	②防火訓練 消火訓練	③工場外周 清掃活動
		